

- 2003 1 焦点「ロイ適応看護モデルを用いた看護研究」
(36 巻) 「看護研究とロイ適応モデルの再考」 Sister Callista Roy, (訳)松尾ミヨ子
「Reflections on Nursing Research and the Roy Adaptation Model」 Sister Callista Roy
「ロイ適応看護モデルに基づく研究—1995～2001 年の研究のクリティックを中心に」 津波古澄子
「日本におけるロイ適応看護モデルを用いた看護研究」 日高艶子, 松尾ミヨ子

- 2 焦点「看護における学術集会—意義・歩み・運営の実際」
「看護学における学術集会の意義」 早川和生
座談会「看護における学術集会の歩みと展望」 中島紀恵子, 中西睦子, 前原澄子, 南裕子, 山本あい子
学術集会運営とそのヒント「会計担当の役割とその実際」 竹崎久美子
学術集会運営とそのヒント「庶務担当の役割とその実際」 勝田仁美
学術集会運営とそのヒント「プログラム委員会の役割とその実際」 工藤美子, 山本あい子
学術集会運営とそのヒント「渉外・広報委員会の役割とその実際」 内布敦子, 荒尾晴恵
学術集会運営とそのヒント「実行委員会(会場担当)の役割とその実際」 井伊久美子
学術集会運営とそのヒント「学術集会運営の全体組織」 山本あい子

- 3 焦点「患者教育のための「看護実践モデル」開発の試み」
「患者教育のための「看護実践モデル」開発の試み—看護師によるとっかかり／手がかり言動とその直感的解釈, 生活と生活者の視点, 教育の理論と技法, そして Professional Learning Climate」 河口てる子, 患者教育研究会 Patient Education Research Group
「「看護実践モデル」における「とっかかり／手がかり言動とその直感的解釈」」 小林貴子, 小長谷百絵, 小平京子, 井上智恵, 松田悦子, 伊藤ひろみ, 土屋陽子, 患者教育研究会 Patient Education Research Group
「看護が捉える「生活者」の視点—対象者理解と行動変容の「かぎ」」 下村裕子, 河口てる子, 林優子, 土方ふじ子, 大池美也子, 患者教育研究会 Patient
「行動変容を促す技法とその理論・概念的背景」 岡美智代, 伊波早苗, 滝口成美, 近藤ふさえ, 中野裕子, 神田清子, 患者教育研究会 Patient Education Research Group
「患者教育に必要な看護職者の Professional Learning Climate」 安酸史子, 大池美也子, 東めぐみ, 太田美帆, 患者教育研究会 Patient Education Research Group

- 4 焦点「看護の知の発展に向けた東アジア博士後期課程の協働」第 6 回東アジア看護学研究者フォーラム(EAFONS)会議より
「日本における学問的な看護の知の発展—The 6th EAFONS Conference “Keynote Address 1”より」 南裕子
「博士課程教育と看護科学の調和をめざして—The 6th EAFONS Conference “Keynote Address 2”より」 Susan Gennaro, (編集)安成智子
パネルディスカッション: 東アジアにおける看護博士後期課程の協働に向けて
「台湾における看護博士課程教育と東アジアの協働」 Yu-Mei(Yu)Chao, (編集)工藤美子
「Silliman 大学の経験から」 Maria Teresita Sy-Sinda, (編集)勝田仁美
「博士課程とエビデンスに基づく研究の機会を導く EAFONS の協働」 David Arthur, (編集)安藤幸子
「タイにおける看護博士課程の歴史的展開」 Somchit Hanucharurnkul, (編集)工藤美子
「韓国における看護博士課程教育」 Euisook Kim, (編集)勝田仁美
「日本における看護博士後期課程教育」 田代順子
会場とのディスカッション (司会)片田範子, Yu-Mei(Yu)Chao, Maria Teresita Sy-Sinda, David Arthur, Somchit Hanucharurnkul, Euisook Kim, 田代順子, (編集)豊田ゆかり

- 5 焦点「質的アプローチが変える臨床研究」
「今日における質的研究への期待—共同研究において求められる役割」 萱間真美
「侵襲的人工呼吸器装着の選択が筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の介護者の心理的負担感に及ぼす影響」 大西美紀, 萱間真美, 簗宗一, 河野由理, 大生定義
「一大西論文クリティーク—神経難病の看護研究とグラウンデッドセオリー・アプローチ」 牛久保美津子
「看護経験のアクチュアリティを探求する対話式インタビュー」 西村ユミ
「終末期がん患者の生きる意味の探求—“底なし沼を泳ぎながら流木を探している”体験」 山口厚子

発行年 号 焦点、特集等のテーマと収載論文
(巻)

- 2003 5 「臨床研究におけるナラティブ・アプローチ」 野口裕二
(36 巻) 「痴呆性高齢者へのナラティブ・アプローチ—回想ボードを用いた試み」 大島真紀
-
- 6 焦点「小児の「痛み」に関する研究」
総説「早産児の痛みのアセスメント・ツール開発に伴う研究課題」 横尾京子
「早産児の侵害受容性刺激に対する顔面表情運動の定量的検討」 横尾京子
「早産児の足底穿刺における顔面表情運動の定量的・記述的分析—消毒と穿刺に対する反応の違い」 阿部明子, 横尾京子
「痛みの判断プロセスとそれに影響を及ぼす因子—がん性疼痛のある子どもの痛み緩和ケア実態の把握(第1報)」 片田範子, 古橋知子, 勝田仁美, 中岡亜紀, 高谷裕紀子, 鈴木真知子, 岩崎由美子, 岩井さよ子, 平尾泰枝, 松林知美
「看護師が行なう痛みの強さの判断—がん性疼痛のある子どもの痛み緩和ケア実態の把握(第2報)」 古橋知子, 片田範子, 勝田仁美, 中岡亜紀, 高谷裕紀子, 鈴木真知子, 岩崎由美子, 岩井さよ子, 平尾泰枝, 松林知美
-
- 7 焦点「グループ支援のための理論・技術・評価—地域看護に焦点を当てて」
「保健師活動におけるグループ支援の特徴と意義—これまでの経緯と今後の方向性」 田口敦子, 錦戸典子, 竹内奈緒子
「地域看護活動におけるグループ形成のための理論・技術」 安齋由貴子, 都筑千景, 横山梓
「グループを支援していくための理論・技術—社会福祉学領域の研究成果から」 都筑千景
「グループの自主化のための理論・技術」 蔭山正子
「グループ活動が地域に発展するための理論・技術」 麻原きよみ, 加藤典子, 宮崎紀枝
「グループ支援におけるアセスメントと評価」 錦戸典子, 永田智子, 福井小紀子
「グループを対象とした研究の計画と解析」 山口拓洋
「保健師によるグループ支援活動の理論および実証研究に関する課題」 村嶋幸代, 田口敦子, 蔭山正子, 都筑千景, 安齋由貴子, 麻原きよみ, 錦戸典子
-
- 2004 1 焦点「看護実践につながる実験研究」
(37 巻) 「看護研究における実験研究—臨床実践への活用に向けた課題」 阿曾洋子
「看護に関する実験研究での対象者をめぐる問題」 細見明代, 伊部亜希, 阿曾洋子
「看護に関する実験研究での測定機器をめぐる問題」 矢野祐美子, 松邨敦代, 阿曾洋子
「実験研究における倫理的配慮をめぐる問題」 山本敬子, 玉井由理子, 阿曾洋子
「—総説—看護に関する実験研究の国内外の比較」 新田紀枝, 和泉京子, 姉崎久敬, 玉井由理子, 伊部亜希, 江川幸二, 古賀輝美, 細見明代, 川端京子, 阿曾洋子
-
- 2 焦点「看護安全への認知的アプローチ」
「医療事故防止のための看護タスクモデル—「縦の糸・横の糸」モデルの提案」 原田悦子, 重森雅嘉, 渡辺はま
「「縦の糸」分析からみた医療の情報システム化」 原田悦子, 重森雅嘉, 渡辺はま, 南部美砂子, 赤津裕子
「注射準備作業における「横の糸」分析—無駄作業分析による試み」 原田悦子, 重森雅嘉, 渡辺はま
「医療の情報化は看護現場に何をもたらすか—「横の糸」分析・無駄作業分析による事例研究」 原田悦子, 重森雅嘉, 渡辺はま, 南部美砂子, 赤津裕子
「全般コード化情報の曜日・時間帯別生起頻度をを用いた分析事例—コード化されたインシデント報告をいかに利用するか」 原田悦子, 南部美砂子
「医療機器のユーザビリティとそのテスト方法—医療安全への認知工学的アプローチ」 原田悦子, 鹿野優
「経験が教える危険—リスク認知における職業経験・スポーツ経験の効果」 重森雅嘉, 原田悦子
翻訳「いかに安全を確保するか?—他分野のアプローチに学ぶ」 Babette Fahlbruch, Bernhard Wilpert, Charles Vincent, (訳)須藤智, (訳)磯野真美, (訳)南部美砂子, (訳)若林正
翻訳「ヒューマンエラーの概念は医療の安全なシステムデザインに役立つか?」 Jens Rasmussen, (訳)村瀬周子, (訳)渡辺彩香, (訳)若林正
-
- 3 焦点「看護教育学における理論開発」
第1章「理論開発への道」 舟島なをみ

- 2004 3 第2章「予測理論の開発に向けた研究の実際と課題」 舟島なをみ, 亀岡智美, 鈴木美和
(37 巻) 第3章「記述理論の統合による新たな知識体系の構築」 亀岡智美, 野本百合子, 山下暢子, 舟島なをみ
第4章「メタ統合を用いた看護学研究の概観—記述理論統合による新たな知識体系の構築に向けて」 山下暢子, 吉富美佐江, 野本百合子, 舟島なをみ
原著1「看護学実習教授活動自己評価尺度(SCTB)の開発—看護教育学における基盤研究発展型応用研究として」 中山登志子, 亀岡智美
原著2「看護における性の異なる少数者の経験—男子看護学生と男性看護師の経験の統合」 松田安弘, 亀岡智美, 山下暢子, 鈴木美和, 野本百合子, 舟島なをみ
-
- 4 焦点「看護・医療の研究におけるタイムスタディ」
第1章「看護・医療の研究におけるタイムスタディの役割と将来動向」 大野ゆう子
第2章「タイムスタディとは—その背景と特徴」 笠原聡子, 石井豊恵, 沼崎穂高, 浦梨枝子, 馬醫世志子, 輪湖史子, 横内光子, 鈴木珠水, 大野ゆう子
第3章「タイムスタディの実施」 笠原聡子, 石井豊恵, 沼崎穂高, 中村亜紀, 聲高英代, 原内一, 稲邑清也, 大野ゆう子
第4章「タイムスタディにおけるデータ管理」 沼崎穂高, 笠原聡子, 石井豊恵, 古川有香, 飯沼正博, 国府裕子, 北村有子, 萩本明子, 雑賀公美子, 原内一, 稲邑清也, 大野ゆう子
第5章「タイムスタディによる結果の解析手法」 石井豊恵, 笠原聡子, 沼崎穂高, 杉田塩, 古川有香, 飯沼正博, 国府裕子, 原内一, 稲邑清也, 大野ゆう子
第6章「タイムスタディを円滑に進めるための実践的な諸課題とその対応」 石井豊恵, 笠原聡子, 沼崎穂高, 左近賢人, 藤本春美, 杉田塩, 門田守人, 原内一, 大野ゆう子
第7章「タイムスタディの明日: 業務合理化の分析から業務科学へ」 稲邑清也
-
- 5 焦点「看護研究と現象学的アプローチの動向」
「一現象学者から日本のナースたちへのごとづて」 J.H. ヴァン・デン・ベルク, (訳)高橋照子
「Message from a Phenomenologist to Japanese Nurses」 Jan Hendrik van den Berg
「現象学的運動と人間科学的研究」 Amedeo P. Giorgi, (訳)藤田千鶴子
「Quality of Life: A Human Becoming Perspective」 Rosemarie Rizzo Parse
「看護と現象学—人間生成理論からみた QOL を通して」 ローズマリー・リゾ・パースィ, (監訳)高橋照子
「看護学と哲学をつなぐもの」 鷺田清一
「看護研究への現象学的方法の適用可能性」 Amedeo P. Giorgi, (訳・構成)吉田章宏
「看護における現象学の活用とその動向」 渡邊美千代, 渡邊智子, 高橋照子
-
- 6 焦点「糖尿病自己管理のアウトカム指標(I)ナショナルスタンダードをめぐる米国の動向」
翻訳「テクニカルレビュー: 糖尿病セルフマネジメント教育コアアウトカム測定尺度」 Kathryn Mulcahy, Melinda Maryniuk, Malinda Peebles, Mark Peyrot, Donna Tomky, Todd Weaver, Peggy Yarborough, (訳)「日本における糖尿病自己管理アウトカム指標の開発」研究班 Research Group: Development of Japanese Standards for Outcomes Measurement of DSME
「Significance of Outcome Measures in Diabetes Education」 Kathy Mulcahy
翻訳「糖尿病教育におけるアウトカム指標の重要性」 Kathy Mulcahy, (訳)兼松百合子, (訳)土屋陽子
「糖尿病アウトカムに関する研究の動向と今後の課題」 森川浩子
-
- 7 焦点「糖尿病自己管理のアウトカム指標(II)ナショナルスタンダードに向けた日本での取り組み」
「Outcomes for Diabetes Education and Psychosocial Interventions」 Martha M. Funnell
翻訳「糖尿病教育および心理社会的介入におけるアウトカム」 Martha M. Funnell, (訳)黒江ゆり子, (訳)藤澤まこと, (訳)普照早苗, (訳)佐賀純子
「クロニックイルネスにおけるアウトカム評価とアウトカム指標—保健医療利用者の心理社会的側面をふまえて」 黒江ゆり子, 藤澤まこと, 普照早苗, 佐賀純子
「アウトカム指標における対象に応じた項目の検討」 清水安子, 正木治恵
「糖尿病教育アウトカム指標開発のプロセス」 稲垣美智子, 多崎恵子, 村角直子, 河村一海, 松井希代子, 早川千絵
-
- 2005 1 焦点「参加観察法トレーニングデータの収集・分析の実践を通して」
(38 巻) 「質的研究方法ゼミの基盤」 戈木クレイグヒル滋子

- 2005 (38 巻) 1 「参加観察法を学ぶトレーニングの必要性和ゼミの概要」 戈木クレイグヒル滋子
「参加観察法トレーニングゼミの実際」 上原和代, 松林由恵, 戈木クレイグヒル滋子
「病棟での参加観察法によるデータ収集」 松林由恵, 上原和代, 戈木クレイグヒル滋子
「grounded theory approach を用いたデータ分析」 戈木クレイグヒル滋子
-
- 2 焦点「クリティカルケア看護領域における研究の動向と課題」
「わが国のクリティカルケア看護に関する研究の動向」 山勢博彰
「クリティカルケア看護領域における海外文献の動向」 黒田裕子
原著論文「クリティカルケアに携わる熟練看護者の技能の記述」 中藤三千代
-
- 3 焦点「看護研究におけるメタアナリシス」
概論Ⅰ「臨床医学研究の妥当性とメタアナリシスの意義」 森實敏夫
概論Ⅱ「看護研究におけるメタ分析とメタ統合」 岡美智代, 岡山久代, 香取洋子, 立岡弓子, 高橋真理
翻訳「禁煙への看護介入—Cochrane データベース/システムティック・レビューより」 綿貫恵美子, 岡有美, 菊地千鶴子, シェザード樽塚まち子, 時田純子, 鈴木紀子, 藤本薫, 佐々木裕子
「メタアナリシスの方法に関するクリティーク—「翻訳：禁煙への看護介入」を題材に」 綿貫恵美子, 岡有美, 菊地千鶴子, シェザード樽塚まち子, 時田純子, 鈴木紀子, 藤本薫, 佐々木裕子
研究報告「コンピュータ・コミュニケーション・ネットワークを利用した患者教育に関するシステムティック・レビュー」 岡美智代, 新井陽子, 若狹晶子, 及川美穂, 高島えり子, 杉本佳子, 高橋菜美
-
- 4 焦点「看護経済学の構築とその枠組み」
「看護経済学の概念構築に関する研究の経緯」 金井 Pak 雅子
「看護経済学の概念の探索」 勝原裕美子, 増野園恵, 角田由佳, 伊豆上智子, 遠藤和子
「医療経済学からみた「看護経済学」」 角田由佳
「看護経済学モデル Version 1, 2, 3 の開発」 伊豆上智子, 金井 Pak 雅子, 勝原裕美子, 遠藤和子, 増野園恵, 角田由佳
「看護経済学の展望」 金井 Pak 雅子, 勝原裕美子, 伊豆上智子, 増野園恵, 遠藤和子, 角田由佳
-
- 5 焦点「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチをめぐって」
「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)について聴く—何を志向した方法なのか, 具体的な手順はどのようなものか」 木下康仁, 萱間真美
「[M-GTA を用いた原著論文・1]がん治療後, 主に検査目的で外来通院している自覚症状のない患者の経験と思い」 宮坂友美
「宮坂論文の査読結果とコメント」 濱口恵子, グレグ美鈴, 宮坂友美
「宮坂論文を読んで—研究成果を臨床で役立てるために」 福嶋好重
「[M-GTA を用いた原著論文・2]小児看護学実習における学生と受け持ち患児との関係形成プロセス」 柴邦代
「柴論文の査読結果とコメント」 及川郁子, グレグ美鈴, 柴邦代
「修正版 M-GTA と Grounded Theory Approach」 竹崎久美子
「宮坂論文・柴論文での議論を振り返って」 萱間真美, グレグ美鈴
スコープ「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの「結果図」作成のヒント」 宮坂友美
-
- 6 焦点「目的重視型保健師活動モデルの開発過程とその成果」
「「目的重視型保健師活動モデル」開発目的とそのプロセス」 村嶋幸代, 田口敦子, 麻原きよみ, 安齋由貴子, 宮崎紀枝, 佐藤憲子, 酒井太一, 有本梓, 吉岡京子, 大森純子
「わが国における保健師活動のモデル・理論に関する文献レビュー」 安齋由貴子, 酒井太一, 佐藤憲子
「欧米における保健師活動の主要なモデル」 麻原きよみ, 大森純子
「保健師の能力・コンピテンシーに関わる研究の状況と課題」 有本梓
「目的重視型保健師活動モデルの実際」 田口敦子, 吉岡京子, 酒井太一, 宮崎紀枝, 佐藤憲子, 有本梓, 安齋由貴子, 麻原きよみ, Joan Kathy Magilvy, 村嶋幸代
「目的重視型保健師活動モデルの活用可能性と今後の方向性」 酒井太一, 佐藤憲子, 安齋由貴子, 村嶋幸代

- 2005 7 焦点「高度専門看護実践の可視化とアルゴリズムの抽出」
(38 巻) 「高度専門看護実践における知識の可視化研究」 水流聡子, 中西睦子, 川村佐和子, 石垣恭子, 宇都由美子, 井上真奈美, 坂本すが, 村上睦子, 佐藤エキ子, 飯塚悦功, 棟近雅彦
「高度実践「がん性疼痛マネジメントプログラムドケア」の解説」 渡邊千登世, 水流聡子, 中西睦子, 内山真木子, 佐藤エキ子, 段ノ上秀雄
「術後せん妄のアセスメントおよびケアのアルゴリズム(案)開発—腹部・胸部外科における典型的な手術を例として」 綿貫成明, 竹内登美子, 松田好美, 寺内英真
「疾病の自己管理支援プログラム—透析自己管理教育プログラムのアルゴリズム」 岡美智代, 神谷千鶴, 佐川美枝子, 山名栄子
「糖尿病自己管理教育(食事療法)の高度専門看護実践アルゴリズム試案—「認知と行動」に依拠するアルゴリズムは可能か」 河口てる子, 東めぐみ, 横山悦子, 中西睦子, 水流聡子
-
- 2006 1 焦点「介入研究—理論とデータに結びついたケアプログラムをデザインする」
(39 巻) 「介入研究に取り組む意義と介入研究が看護実践にもたらす価値」 金川克子
「介入研究 Intervention Research に向けて行動パターンへの効果的な介入援助をデザインする」 Frances Marcus Lewis, 水野道代
「介入研究に取り組む(1)—ニーズアセスメントをもとに説明モデルをデザインする」 Frances Marcus Lewis, 斉藤恵美子
「介入研究に取り組む(2)—説明モデルをもとに介入研究をデザインする」 Frances Marcus Lewis, 田高悦子
「介入研究に取り組む(3)—変更可能な原因と保健行動の理論から介入援助を計画する」 Frances Marcus Lewis, 水野道代
-
- 2 焦点「Community-Based Participatory Research—患者・家族・市民とともに創る研究」
基調講演・1「CBPR とは何か?—Community-Based Participatory Research の定義・方法・アウトカム」 Noel J. Chrisman, 麻原きよみ, 鈴木久美
基調講演・2「CBPR の実際—Community-Based Participatory Research の臨床への応用」 Noel J. Chrisman, 鈴木久美, 麻原きよみ
「日本の地域看護実践へ向けた CBPR の適用と課題」 麻原きよみ
「一般女性のための乳がん予防啓発教育に関する研究を乳がん体験者と協働する際の課題」 鈴木久美
「日本型遺伝看護研究プロジェクトにおける市民との協働」 有森直子
ディスカッション「看護職と患者・家族・市民が研究を協働するために」 小松浩子, 小陽美紀, 麻原きよみ, 鈴木久美, 有森直子, Noel J. Chrisman
「Community-Based Participatory Research に関する文献レビュー」 酒井昌子, 宮崎紀枝, 麻原きよみ, 鈴木良美, 安齋ひとみ, 加藤典子, 有本梓, 大森純子, 梅田麻希, 小野若葉子, 小林真朝, 地域看護 CBPR 研究会 CBPR Research Group
-
- 3 焦点「新しいケアの創造に向けたがん患者・家族の理解」
「看護師による症状マネジメントモデル—がん患者を主体とした症状体験の理解と看護師の方略」 和泉成子
「乳がん患者の意思決定を支える看護のレビュー」 国府浩子
「乳がん患者へのグループ療法の評価—QOL の側面から」 中條雅美
「小児がん経験者(Survivors of Childhood Cancer)の発達の移行の検討」 松尾ひとみ
「一般病棟から緩和ケア病棟へのギアチェンジ」 奥祥子, 佐々木宏美, 塚本康子, 牛尾禮子, 中俣直美
-
- 4 焦点「認知症高齢者の尊厳を維持する看護研究」
「認知症高齢者の QOL の概念・評価尺度の動向と今後の研究の課題」 鈴木みずえ, グライナー智恵子, 伊藤薫
「パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピングを用いた研究の動向と看護研究の課題」 鈴木みずえ, Dawn Brooker, 水野裕, 内田敦子, グライナー智恵子, 日比野千恵子
「認知症高齢者への音楽療法に関する研究の動向と看護研究の課題」 鈴木みずえ, 磯和勲子, 金森雅夫
「Need-driven Dementia-compromised Behavior(NDB)Model に関する研究の動向と課題」 グライナー智恵子, 鈴木みずえ, 磯和勲子, 内田敦子
「重度認知症高齢者に対する看護介入としての他動式リズム運動の効果」 池田道智江, 鈴木み

- ずえ, 澤井史穂, 野田里美, 小田啓代, 吉水千代子
-
- 2006 5 焦点「看護学における「生活者」という視点—「生活」の諸相とその看護学的省察」
(39 巻) 「看護学における「生活者」という視点についての省察」 黒江ゆり子, 藤澤まこと, 三宅薫, 普照早苗, 田内香織
慢性の病いと「生活者」, そして「生活」
「訪問看護の領域における「生活者」と「生活」」 岸田利香, 市橋恵子, 普照早苗
「災害看護における「生活者」と「生活」—阪神・淡路大震災の体験から」 池田清子
「健康教育とクロニッカルネスにおける「生活者」と「生活」を考える」 河井伸子, 中岡亜希子, 黒江ゆり子
「精神看護における「生活者」という視点について」 古城門靖子, 寶田穂
「社会福祉における「生活者」および「生活」という概念について—わが国における貧困者に関する研究からみえること」 杉野緑
看護学において「生活者」の「生活」を描くための研究方法
「「ライフストーリーの樹」モデル—専門家と生活者の場所と糖尿病のナラティブ」 やまだようこ, 山田千積
「「生活者」の「生活」を描くためには—3つの面接調査研究の経験から」 井上洋士, 平野真紀, 後藤佳奈恵, 尾中真悟
「看護において生活をどう捉えるか—解釈的現象学による生活習慣病者の病気の体験から」 野並葉子
【翻訳】「ライフストーリーインタビュー」 Robert Atkinson, 翻訳黒江ゆり子, 北原保世, 慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」についての研究グループ
「看護研究において人々の「生活」を知るための方法—インタビューで生じること」 寶田穂, 黒江ゆり子, 中岡亜希子
-
- 6 焦点「補完代替医療における看護療法の検証」
「補完代替医療における看護療法の位置づけと課題」 小坂橋喜久代
「入院患者に対する背部マッサージ・指圧の効果—自律神経活動および主観的指標による評価」 柳奈津子
「健康女性への意図的タッチによって引き起こされる生理的・情緒的反応」 金子有紀子, 小坂橋喜久代
「Therapeutic touch による生理的反応と主観的反応に関する基礎的研究」 笠原久美子, 柳奈津子, 小坂橋喜久代
「ラベンダーオイルを用いた足温浴のリラクゼーション効果—皮膚コンダクタンスおよび気分形容詞チェックリストによる評価」 中畠広美, 椎原康史, 小笠原映子, 牧野孝俊, 安藤満代, 小坂橋喜久代
-
- 7 焦点「研究方法論セミナー」
「統計学入門—看護研究の質を高める技術を習得する」 中野正博
「量的研究—調査の精度を高める」 西田真寿美
「質的研究方法ワークショップ—グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ」 戈木クレイグヒル滋子, 山本美智代, 松林由恵, 畑中めぐみ, 小野美也子, 水町清美
-
- 2007 1 焦点「看護学教育における方法論の探求と研究的視座」
(40 巻) 「看護学における教育デザイン開発の研究的意義」 櫻井利江, 浅野美礼, 川口孝泰
「教養教育を礎とする基本看護技術演習—プログラムの開発指針と今後の課題」 浅野美礼, 櫻井利江
「看護基本技術教育の具体的展開方法」 櫻井利江, 浅野美礼
「批判的思考能力の獲得のための教育方法—ソクラテス法とケースメソッドの導入」 櫻井利江, 浅野美礼, 川口孝泰
「基礎看護学実習における臨床実践能力の基盤形成と評価基準の明確化」 櫻井利江, 浅野美礼, 川口孝泰
「看護基本技術の学習に向けた導入教育の試案」 川口孝泰, 櫻井利江, 浅野美礼
-
- 2 焦点「国家試験問題の作成能力とブラッシュアップ能力の向上」
「国家試験と客観試験における評価の考え方」 川本利恵子
「「試験問題作成の視点」の検討プロセス」 村瀬千春, 川本利恵子
「試験問題ブラッシュアップの例」 川本利恵子, 村瀬千春, 金山正子, 大塚邦子, 小田日出子,

吉嶺敏子, 二塚信, 田中美加

- 2007 3 焦点「博士課程院生のための研究法特別講義」
(40 巻) 「「魅力ある大学院教育」のための看護学学位論文指導プロセスでの課題と展望」 井上智子
研究者としての立ち位置

「現象学的アプローチと臨床との接点—研究者の姿勢を中心に」 広瀬寛子

「プロジェクト研究における質的研究の役割」 萱間真美

研究の実際

「エスノグラフィーを用いて質的看護研究を行なう—研究理念と研究方法の概要」 水野道代

「グラウンデッド・セオリー・アプローチの技法とその適用」 戈木クレイグヒル滋子

秋元典子

「アクションリサーチ—実践家ナースと看護教育者・研究者のパートナーシップ」 嶺岸秀子

「量的研究の実際—調査研究方法の紹介」 宮崎有紀子

ベナー博士からのメッセージ「博士論文を執筆する人のために— Surviving Your Dissertation for Japanese Graduate Students」 Patricia Benner

- 4 焦点「高齢者訪問看護の質指標の開発」

「高齢者訪問看護の質指標の開発の意義とプロセス」 山本則子

「排便ケアに関する質指標の構築と標準化—〈第1報〉質指標作成のプロセス」 辻村真由子, 鈴木育子, 赤沼智子, 根本敬子, 本田彰子, 石垣和子, 山本則子

「排便ケアに関する質指標の構築と標準化—〈第2報〉全国の訪問看護師を対象とした実態調査による実践への適用可能性の検討」 辻村真由子, 鈴木育子, 赤沼智子, 根本敬子, 本田彰子, 石垣和子, 山本則子

「排尿ケアに関する質指標の構築と標準化」 岡本有子, 鈴木育子, 岡田忍, 石垣和子, 山本則子

「睡眠障害へのケアに関する質指標の構築と標準化」 鈴木育子, 岡本有子, 岡田忍, 石垣和子, 山本則子

「慢性疼痛ケアに関する質指標の構築と標準化」 根本敬子, 辻村真由子, 鈴木育子, 赤沼智子, 本田彰子, 山本則子, 石垣和子

「認知症ケアに関する質指標の構築と標準化」 伴真由美, 鈴木祐恵, 金川克子, 天津栄子, 佐藤弘美, 細川淳子, 伊藤麻美子, 松平裕佳, 石垣和子, 山本則子

- 5 焦点「看護研究における倫理を再考する」

「研究者のモラルとミスコンダクト」 勝原裕美子

「[日本の研究倫理審査の現状と課題]—倫理審査を行なう側の立場から」 高田早苗

「[日本の研究倫理審査の現状と課題]—研究実施者として倫理審査を受ける立場から」 小西恵美子

「[日本の研究倫理審査の現状と課題]—病院内看護研究の倫理審査の現状と課題」 田村恵子

「[日本の研究倫理審査の現状と課題]—医療機関における看護研究倫理審査の実態」 高田早苗, 勝原裕美子, 川上由香, 小西恵美子, 小笹由香, 田村恵子, ウィリアムソン彰子, 石井トク, 星和美, 和泉成子

「[米国の研究倫理審査の現状と課題]—倫理審査を行なう側の立場から」 小笹由香

「[米国の研究倫理審査の現状と課題]—倫理審査を申請する側の立場から」 和泉成子

「アン・デービス博士との研究倫理についての Q & A」 Anne J. Davis, 小西恵美子, 和泉成子

- 6 焦点「予防看護学研究の進展」

「予防看護学研究の現在—北欧における進展を例に」 早川和生

「褥瘡予防の看護研究」 阿曾洋子, 矢野祐美子, 宮嶋正子, 石澤美保子

「病院感染予防の看護研究」 土田敏恵, 牧本清子

「乳幼児における言語発達障害予防の看護研究」 林知里

「セルフケア研究と予防看護学—糖尿病患者セルフケア能力測定ツール開発研究を通して」 清水安子

「メンタルヘルスにおける予防的看護ケア—患者と家族のレジリエンスの促進をめざして」 藤原千恵子

「予防看護学研究と新しい疫学」 加藤憲司

- 7 焦点「日本の看護師の労働環境の実態—リンダ・エイケンとの共同研究」

「〈Introductory Note〉International Hospital Outcomes Study」 Linda H. Aiken

- 2007 7 「〈巻頭言〉国際的な病院アウトカム研究」 Linda H. Aiken, 金井 Pak 雅子
(40 巻) 「病院ケアに関する看護師レポートの6か国比較」 伊豆上智子
「Nursing Work Index/Nursing Work Index-Revised 開発の経緯」 伊豆上智子, 勝原裕美子, 金井 Pak 雅子
「Nursing Work Index-Revised の因子分析」 金井 Pak 雅子
「Maslach Burnout Inventory の因子分析」 金井 Pak 雅子
「日本の病院における看護師の労働環境の現状と課題」 増野園恵
「日本における看護師の労働市場—バーンアウトの背景にある経済・政策的問題」 角田由佳
「日本における調査結果からみえてきたこと」 金井 Pak 雅子
-
- 2008 1 焦点「科学的な質的研究のための質的統合法(KJ法)と考察法(I)」
(41 巻) 「看護学研究における質的統合法(KJ法)の位置づけと学問的価値」 正木治恵
「科学的な質的研究のための質的統合法(KJ法)と考察法の理論と技術」 山浦晴男
「北京大学看護学院教員・院生の研修体験感想から浮かび上がる質的統合法(KJ法)の姿—民族による受け止め方の違いと質的研究法としての有効性の解明」 山浦晴男
「精神科リハビリテーション場面における KJ 法の応用」 丸山晋
-
- 2 焦点「科学的な質的研究のための質的統合法(KJ法)と考察法(II)」
「修論「身体心地よさに働きかける看護援助—糖尿病患者に対するマッサージを介したセルフケア援助をととして得られた患者の反応より」の解説と質的統合法(KJ法)による分析」 中野裕子
「修論「デイサービスを通じた高齢者の他者との関わり—いきいきとしてみえる高齢者を対象に」の解説と質的統合法(KJ法)による分析」 森野愛
「修論「糖尿病チームケアにおける看護師の調整行為の構造化」の解説と質的統合法(KJ法)による分析」 柳井田恭子
「修論「医療介入を伴う経陰分娩となった女性の出産体験について」の解説と質的統合法(KJ法)による分析」 前川智子
質的統合法(KJ法)を用いた修士論文指導時の気づき」 正木治恵, 山浦晴男
-
- 3 焦点「理論・研究・実践を総合するリフレクション」
「リフレクションとは何か—その基本的概念と看護・看護研究における意義」 田村由美, 津田紀子
「わが国におけるリフレクション研究の動向」 藤井さおり, 田村由美
「看護基礎教育におけるリフレクションの実践—神戸大学医学部保健学科の試みから」 田村由美
「Using Reflection and Portfolios in Practice — The Undergraduate Nursing Experience」 Daniel Langan, Meabh Prendergast
翻訳「リフレクションとポートフォリオの看護実践における活用—学生の看護経験から」 Daniel Langan, Meabh Prendergast, 田村由美
「構成的グループエンカウンターとリフレクション」 前田ひとみ, 津田紀子
「看護実践に埋め込まれたリフレクションの構造—マイクロモメント・タイムライン・インタビュー法の活用」 池西悦子, 田村由美
-
- 4 焦点「アリゾナ大学大学院博士課程におけるオンライン教育の実践」
「アリゾナ大学 College of Nursing と博士課程オンライン教育の概要」 林さとみ
【インタビュー】オンライン教育導入のための学部長としての役割 Marjorie A. Isenberg, 金井 Pak 雅子
【インタビュー】オンライン教育導入の責任者として考えたこと Judith A. Effken, 金井 Pak 雅子
「アリゾナ大学大学院博士課程におけるオンライン教育の学習プロセス」 林さとみ
【インタビュー】オンライン教育におけるテクニカルサポートの重要性 Brennan Washburn, 金井 Pak 雅子
「アリゾナ大学大学院博士課程におけるオンライン教育の学習プロセス(2)」 金井 Pak 雅子
【インタビュー】ともに学ぶ者として—クラスメートの声から 金井 Pak 雅子
【対談】オンライン教育がもたらすものと日本の大学院教育における可能性」 金井 Pak 雅子, 林さとみ
-
- 5 焦点「看護学の基盤形成にいかすメタ統合—質的研究の蓄積と活用」
解説「なぜいま質的研究のメタ統合が必要か」 石垣和子, 山本則子

- 2008 5 解説「質的研究のメタ統合の創出—Paterson らによるメタスタディを中心に」 宮崎美砂子
(41 巻) 解説「質的研究のメタ統合におけるメタエスノグラフィー」 鳥田美紀代
研究の実績「障害児を育てる家族に対する看護実践モデル開発をめざした質的研究の統合—家族のノーマリゼーションを視点としたメタデータ分析による体系化」 佐藤奈保
研究の実績「メタ統合で明らかになった援助関係形成」 正木治恵
研究の実績「メタ統合で明らかになった終末期がん患者を抱える家族員の体験」 眞嶋朋子, 佐藤まゆみ, 増島麻里子, 柴田純子, 神間洋子, 櫻井智穂子, 小坂美智代, 伊藤道子, 本田彰子
研究の実績「在宅療養を支える家族介護者の介護への対処法の習得—家族介護者への看護ニーズの明確化に向けたメタ統合」 小笹優美, 山本則子, 片倉直子, 辻村真由子, 藤田淳子, 篠原裕子, 松川仙奈, 磯部有紀子, 園田芳美, 石垣和子
-
- 6 焦点「看護における effectiveness research — RCT を超えて」
講義 1「現実世界での介入研究」 Ivo Abraham, 坂下玲子
講義 2「なぜ看護は effectiveness research をリードしなければならないのか」 Ivo Abraham, 坂下玲子
「effectiveness research の確立に向けて—Ivo Abraham 先生講義より」 坂下玲子
-
- 7 焦点「看護研究におけるアフォーダンスの可能性」
「アフォーダンスとは何か—その基本的な考え方と意義」 三嶋博之
「アフォーダンス研究が看護にもたらすもの」 谷津裕子
「看護技術の習得・熟練におけるアフォーダンス—ナースと看護学生の「アンブルカット」を題材に」 吉田みつ子
「アフォーダンス理論からみた排泄行動—点滴スタンドの有無による変化に焦点を当てて」 川原由佳里
「治療のためのアフォーダンス—見えるところに答えを求めるエコロジカルセラピー」 野村寿子
「理学療法からみたアフォーダンス—その実践から看護への適用を考える」 富田昌夫, 杉山智久, 杉優子, 丹羽志暢
-
- 2009 1 焦点「看護に活用するレジリエンスの概念と研究」
(42 巻) 「レジリエンスの定義と研究動向」 石井京子
「先天性心疾患をもつ思春期の子どものレジリエンス」 仁尾かおり
「在宅中心静脈栄養法を施行している学童期の子どもと親のレジリエンス」 河上智香
「患者のレジリエンスを引き出す看護職者の支援」 藤原千恵子
レジリエンス尺度の標準化の試み—『S-H 式レジリエンス検査(パート 1)』の作成および信頼性・妥当性の検討 佐藤琢志, 祐宗省三
原著論文「成人先天性心疾患患者がキャリアオーバーを経て疾患に対する認識を変化させていくプロセスに関する質的研究」 落合亮太, 日下部智子, 宮下光令, 佐藤秀郎, 村上新, 萱間真美, 数間恵子
-
- 2 焦点「研究の質を高めるコツと工夫—申請書の書き方・投稿論文のまとめ方」
意義ある研究のための申請書の書き方—【第 1 部】研究計画を練る 坂下玲子
意義ある研究のための申請書の書き方—【第 2 部】研究助成申請書作成のポイント 坂下玲子
「アクセプトされる論文を書くために」 川口孝泰
-
- 3 焦点「超高齢社会における転倒予防のための看護研究(1)」
「看護研究における転倒予防研究の意義と今後の課題」 鈴木みずえ, 奥百合子, 常田佳代
「転倒リスクとリスクアセスメントツールに関する看護研究の動向と今後の課題」 泉キヨ子, 尾坐麻理佳, 宮腰美希
「地域高齢者に対する転倒予防を目的とした看護研究の動向と課題」 征矢野あや子
-
- 4 焦点「超高齢社会における転倒予防のための看護研究(2)」
「転倒予防を目的としたフットケア研究の動向と看護研究の課題」 平松知子
「運動を用いた転倒予防看護研究の動向と課題」 加藤真由美
「認知症高齢者に対する転倒予防を目的とした多因子介入研究の動向と看護研究の課題」 鈴木みずえ, 征矢野あや子, 安田真美, 金森雅夫, 本間昭, 武藤芳照
-
- 5 焦点「質的研究方法を用いた看護学の学位論文評価基準の作成—大学院博士課程における質的研究方法の教育」
「質的研究方法を用いた学位論文評価基準作成の概要とプロセス」 萱間真美
「修士課程では質的研究に関してどのような教育が行なわれているか」 大熊恵子, 安保寛明

- 2009 5 「米国の大学院教育で用いられている学位論文評価に関するキーワード—米国 G 大学大学院でのインタビューを通して」 竹崎久美子
(42 巻) 「カナダ D 大学大学院でのインタビューから得た質的研究評価に関する示唆」 グレック美鈴
「米国とカナダの大学院における学位論文審査委員会の活動の実際」 香川秀太
「質的研究方法を用いた学位論文審査のためのガイドライン」 麻原きよみ
「意義あるおもしろい質的研究論文を仕上げるための工夫」 山本則子
「学位論文審査委員会の構成と役割—立教大学大学院社会学研究科を例に」 木下康仁
「なぜこの研究が必要だったのか—看護学を authorize する存在としての学位論文」 萱間真美
-
- 6 焦点「translational research としての小児の疼痛緩和方法の開発」
「translational research としての小児の疼痛緩和方法の開発—研究の積み重ねの概要」 片田
範子
痛みアセスメントツールを使用した痛み緩和ケアの効果
1「神奈川県立こども医療センターの場合」 有田直子
2「子どもとおやの痛み緩和ケアへの評価および看護師の意識・態度・ケアの変化」 松岡真
里, 加藤真知子, 鎌田真紀
3「子どもとその家族中心の疼痛緩和ケアをめざして」 笹木忍
4「子ども・家族の痛みへの主体性を引き出す取り組みと看護師の痛みの捉え方の変化を通し
て」 田村恵美
5「非薬理学的援助方法の臨床への導入と効果の検証」 濱田米紀, 三宅一代
「小児の痛み緩和ケアツール導入過程における CNS の技術と役割の明確化」 濱田米紀, 有田
直子, 笹木忍, 田村恵美, 西原佳奈美, 松岡真里, 内正子, 三宅玉恵, 三宅一代, 片田範子
「研究成果を実践に根付かせるための CNS を活用した臨床—研究連携システムの構築」 内正
子, 三宅玉恵, 三宅一代, 太田千寿, 永瀬由紀子, 片田範子
-
- 7 焦点「看護に SOC をどう活用するのか」
「ストレス対処力 SOC (sense of coherence) の概念と定義」 山崎喜比古
「看護学領域における SOC 研究の動向と課題」 戸ヶ里泰典
「SOC スケールとその概要—SOC スケールの種類と内容・使用上の注意点・課題」 戸ヶ里泰
典, 山崎喜比古
【研究実践例から考える】看護師の SOC と職場のあり方—いきいきとした看護師を支える職場
要因の検討 竹内朋子, 戸ヶ里泰典, 山崎喜比古
【研究実践例から考える】未治療の病いをもちながら生きる体験—SOC 理論を用いた質的デー
タ分析の試み 藤島麻美, 戸ヶ里泰典, 山崎喜比古
【SOC を活用する糸口】SOC の発達・形成に関する理論と実証研究 坂野純子